

クラス	TU101	担当教員	遠藤 由美
テーマ	子どもとおとなが育つ教育福祉		
著書・論文 研究課題等	研究課題：教育福祉問題研究 著書・論文等：「戦後日本の養護施設の系譜-合宿教育所の成立と転換-」『児童福祉法研究』第10号、 「教育と福祉の権利の展開」『子どもの権利研究』第7号、 『児童養護と青年期の自立援助』		
ゼミナール概要			
キーワード：教育福祉、教育と福祉の権利の統一的保障、学びあいと育ちあい、貧困、養護問題			
目的、内容、方法、授業計画等：			
<p>私は、学生時代、児童養護施設の子どもたちが高校進学して学びたくても、経済的な理由や施設の条件などから学べない実態に出会いました。中卒で就職せざるを得なかった人の中には、転職を繰り返し、施設からは把握できなくなってしまった人がいました。学びたい子どもたちが学べる条件づくりが求められていると思い、児童養護施設の保育士さんや児童指導員さんたちと研究会活動をするようになって、20年以上たちました。</p> <p>研究運動の取組みのなかで、子どもたちの条件が前進した面もありますが、未だに安定した暮らしのできない人たちもたくさんいます。家族の貧困、子どもの貧困、実践の貧困、制度の貧困が問題です。私にとっては、社会的養護のなかで生きる人たちが学びを深め、生活を切り拓いていけるような条件を考え作っていくことが、ライフワークになりました。</p> <p>今、これまでの経験をふまえ、子どもとおとなが共にそだちあう存在だととらえ、子どもが育つためにおとなができること、おとな同士の関係形成、子どもとの関わりをとおしておとなが学ぶことに注目しています。</p> <p>ゼミの課題としては、これまで大きく3つの課題を取り上げてきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 児童養護施設、児童自立支援施設の子どもたちの学習権保障（学校との連携・関係、施設生活における教育的役割） ② 保育士・児童指導員の役割（共同学習） ③ 親・家族との共育 <p>現3年生のゼミでは、前期に絵本専門店と大型児童館にでかけ、子どもたちとふれあいながらその施設の特徴を体感しました。後期には、保育専修、初等教育専修区別することなく、メンバーの問題関心ごとにテーマを決めて、愛知県内の施設地図を作り、インタビュー調査の準備を進めています（児童養護施設、児童自立支援施設、知的障害児施設、ファミリーホーム、院内学級、認定保育園など）。</p> <p>来年度は、子どもたちの学びと育ちについて、学校教育保障にとどまらない広い意味合いでの学習権保障（遊びや生活、表現活動など）の観点から検討を深めていきたいと考えています。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>ゼミでは、自前のことばで考え、表現すること、ゼミメンバーと協力して課題に取り組むこと、現実から学ぶことを大切にします。さまざまな人たちの意見は大切に、学んだり参考にしたりすることはおおいにやってほしいことですが、そのまま「うのみにする」ことは避けたいものです。自分なりに他の意見や説をどうとらえていくのか、自分はどう感じるのか、考えるのかを大切にして、表現してください。</p> <p>せっかく福祉大の子ども発達学部に来てきて、遠藤ゼミを選択するのならば、それをいかして、教育福祉を学んでください。講義「教育福祉論」でお話すること以上の内容について、考えあうことを楽しみにしています。</p> <p>3年次の終わりから卒業研究の準備をはじめ、4年次には卒業論文を書きます。合宿や研究会参加もしますので、お金もかかります。準備をしておいてください。</p> <p>エントリーにあたっては、必ず面談にきてください。問題関心をきいたうえで、受け入れを検討します。</p>			